

## 追悼のことば

新緑に映えるここ横須賀馬門山海軍墓地において、第五十六回墓前祭を執り行うにあたり、主催五団体を代表し謹んで追悼の詞を申し上げます。

ここ馬門山に鎮まります御霊は、明治十五年から第二次世界大戦の終結に至るまでの間に、諸戦役や訓練において戦死あるいは殉職せられた千五百十二柱の方々であります。

国家の危急に際し敢然として祖国のために勇戦奮闘され、尊い生命を捧げられた方々であり、今静かに在りし日の勇姿を偲びますと哀心より哀悼敬慕の念を禁じえません。

戦後六十有余年、お蔭様で我が国は平和で豊かな社会を築き上げて参りました。

しかしながら、その平和は、同盟国の庇護の下に育まれた脆弱なものであり、その豊かさは、余りにも物的なものに偏重したが故に行き過ぎた利己主義を生んで来たことも隠れの無い処であります。

今般の東日本大震災と併せて生起した福島原発事故は、正にその虚を突かれたものと言えましよう。

しかし、この未曾有の国難に在って、日本国民が示した真摯で労わりの有る姿は世界の賞賛の的となり、過酷な環境下で我が身を省みず黙々として救済活動に当たる自衛官の姿は国民に深い感銘を与えるところにも強い信頼感を覚醒させました。

そこに我々は、物的豊かさの中で忘れかけた「日本人の魂」の発露を見せられたのであります。

我々はこの国難を契機として、先輩諸士が残された我が国の優れた伝統と文化に根ざしたこの種の精神的豊かさを取り戻し、強靱でしなやかな平和国家の再構築を目指すものであります。

本日ここに、御霊の崇高なる意を継いで、今次大震災からの復興をお誓いするとともに、御霊のご冥福とご遺族のご多幸を祈念して、追悼の詞とさせて頂きます。

平成二十三年五月十四日

横須賀水委会

会長代行 土井 克彦